

## 2020 年度マリンバイオテクノロジー学会 若手の会シンポジウム報告

2020年12月 15日 : 13時10分~15時50分、初のオンラインによる若手の会主催のシンポジウムをZoom Webinarで開催しました。今回のシンポジウムでは、沿岸生態系における生物多様性についてメタバーコーディング技術で取り組まれている、国立研究開発法人水産研究教育機構水産資源研究所生命情報解析部主幹研究員の長井敏先生、微生物の行動生態の解明に個々の細胞をライブで可視化することに取り組まれている、筑波大学生命環境系微生物サステナビリティ研究センター助教の八幡穰先生、サンゴ礁の保全に対して共生している褐虫藻との共生関係から取り組まれている、基礎生物学研究所総合研究大学院大学准教授の高橋俊一先生にご講演をお願いしました。

講演には90名が参加し、竹山春子会長の開会の挨拶にはじまり、長井敏先生には「メタバーコーディングによる微小プランクトン検出技術の現状」、八幡穰先生には「微生物の行動生態学とライブ可視化技術」、高橋俊一先生には「サンゴと藻類の共生:サンゴの高温環境適応」という演題で、質疑応答を含め50分ずつのご講演というプログラムでした。

長井先生には、微小プランクトンを対象に、メタバーコーディング技術を用いた環境生物モニタリングの結果から、その動態についてお話しいただくとともに、海洋の富栄養化や地球温暖化による影響を考える上で重要な、沿岸生態系における生物多様性に関する研究について、ご講演いただきました。続いて八幡先生に、海洋細菌 *Vibrio ordalii* の最適採餌戦略を例に、水圏の微生物がどのような行動戦略をとっているのか、最新の1細胞トラッキング技術や機械学習を用いた微生物コミュニティに関する研究についてお話しいただきました。最後に、高橋先生には、サンゴの白化現象の原因である、海水温上昇によって崩れるサンゴと褐虫藻の共生関係についてお話しいただくとともに、それらの知見をどうサンゴ礁の保全に利用可能かについてお話しいただきました。先生方のご講演内容はとても興味深く、ご講演後は参加者から多くの質問が寄せられました。

今回の若手の会シンポジウムは、初のオンラインで開催しましたが多くの方に参加して頂き、特に会員外の方にとっては参加し易い会となったようでした。一方で、会場の雰囲気を感じたりや講演者と参加者、参加者同士の交流が行えなかった点が今後の課題と感じました。シンポジウム後にアンケートに答えて頂いたところ、オンライン開催に満足したとの声が多く、メリットとして時間の都合がつけ易いことや遠隔地からも参加できるといった内容が寄せられました。また運営に関して、休憩時間の設定やシンポジウム後の講演者への質問などの声もあり、より良いシンポジウムにできる伸びしろを感じました。今後について、オンライン開催に対して継続を望む声と共に、対面も望む

声もあったため、オンラインと対面の同時開催が良いと感じました。新たにオンラインというツールが利用可能となったため、国内外の講演者から魅力的な話題を学会会員内外に向け発信し、本学会をさらに盛り上げていく企画・運営ができる気持ちになりました。

若手の会シンポジウム企画担当 木下滋晴・新家弘也



長井 敏 先生



八幡 穰 先生



高橋 俊一 先生

